

『ひろがる言葉 小学国語 三下』年間指導計画・評価計画（案）

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 思考・判断・表現（◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと） ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（1）・言語活動例（2）〉	時	学習活動	評価規準
10	—	三年生で学ぶこと				
10 ～ 11	16 (話す聞く 9, 書く2)	一 絵文字の特長をとらえよう	◇身のまわりのさまざまな絵文字がどんなことを表しているかなどについて話し合い、絵文字に対する興味や関心を高める。			
10	2 (話す聞く 2)	世界の人につたわるように	◇身のまわりの絵（絵文字）を友達と紹介し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	1	○単元名とリード文を読み、絵文字について考えるという学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 1. 身のまわりにある絵文字を発表する。 2. 教科書に示されたそれぞれの絵文字が、何（どんな競技）やどんな意味を表しているのかを考える。 2	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） 【態度】進んで集めた材料を比較したり分類したりして、学習の見通しをもって、グループで話し合おうとしている。
	7 (書く2)	くらしと絵文字	○段落のつながりに気をつけて文章を読み、絵文字を説明する文章を書く。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら、考えと理由、事例の関係などを叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	3	○単元名とリード文を読み、段落のつながりに気をつけて教材文を読んで絵文字を説明する文章を書くという学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 書かれていることの大体を確かめる。 (1) 筆者は、絵文字とはどのようなものかと言っているのか、本文から確かめる。 (2) 「くらしと絵文字」を三つの大きなまとまりに分けて捉える。 4～6	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、身のまわりの絵文字について説明する文章を書こうとしている。
				7・8	深めよう 3. 身のまわりで見つけた絵文字を説明する文章を書く。 (1) その絵文字を見つけた場所や、意味を書く。 p.15に例示された絵文字が、文章に書かれた三つの特長のどれにあてはまるか考える。 (2) 「始め・中・終わり」の三つの段落構成で、身のまわりにある絵文字や本から見つけた絵文字を説明する文章を書く。 (3) 考えたことや感想を書き、文全体を読み直す。	
				9	広げよう 4. 身のまわりにある絵文字を説明する。 (1) 書いた文章を友達と読み合う。 (2) 感想を話し合う。 (3) 学習全体を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10 ～ 11	7 (話す聞く 7)	絵文字で表そう	◇司会や記録などの役割を決めて、保健室を表す絵文字についてグループですずんで話し合う。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表 A(1)ア ◇相手を意識して、話の中心が明確になるように理由や事例などを挙げながら、話の構成を考えること。 ⇒思判表 A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表 A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表 A(1)エ ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒◎思判表 A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表 A(2)ウ	10 11 12 13・14 15・16	○単元名とリード文を読み、保健室についての話し合いの例をもとに学習の見通しをもつ。 (1) これまで行ってきた話し合いの際の進め方や役割分担を想起する。 (2) 「学習の進め方」と照応させながら、保健室の例をもとに学習の全体の流れをつかむ。 決めよう・集めよう 1. 絵文字にする場所を決める。 組み立てよう 2. 役割を決めて、話し合いの進め方を確かめる。 (1) 「1」の流れを確かめ、話し合いの内容、記録係のノート例をあわせて読み、春田さんのグループのメンバーの役割や立場を理解する。 話そう・聞こう（重点） 3. グループで話し合う。 (1) グループの友達と役割を交替して話し合いを繰り返し、それぞれの役割や立場で話し合いを進めるポイントを確認する。 (2) どのようにすれば上手なグループの話し合いになるのか確かめ、役割をはっきりさせて話し合う。 伝え合おう 4. 話し合いの感想を伝え合う。 (1) グループごとに話し合いで決まったことを全体の場で報告し合い、それぞれの役割がきちんと果たせたかを振り返る。 ○自分の役割や友達の役割について振り返り、これから生かせることを書き留める。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ） 【態度】積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。
11	4 (話す聞く 2)	気持ちを表つたえる話し方・聞き方	△言葉にはいろいろな意味がこめられることを知り、気持ちが伝わる話し方・聞き方について考える。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒◎思判表 A(1)イ ◇話の中心が伝わるように、場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表 A(1)ウ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表 A(2)ウ	1・2 3 4	○気持ちを伝えるための話し方・聞き方について学習することを理解して、学習の見通しをもつ。 1. 「言葉」と「話し方・聞き方」について学ぶという学習内容を理解する。 2. いろいろな気持ちをこめて「ケロケロ」と言い合い、言葉にこめられた意味（気持ち）を考える。 3. 自分が考えたほかの気持ちを友達に「ケロケロ」で表し、何を伝えようとしているのか「あてっこゲーム」をし、伝えたいことをどう表現すればいいのか、何を工夫すれば伝わるのかについて話し合う。 4. 気持ちの伝え方（伝わり方）を確かめ、どのようにすれば相手の気持ちを傷つけずに自分の意思を伝えられるのかを知る。 5. (1) 聞くほうは何に注意して聞けばいいのか考える。(2) 聞き方を変えることで、相手の話しやすさがどう変わるかについて考える。 6. 気持ちの伝え方や聞き方、言葉以外の表情・態度などについて考える。 7. 言葉にこめられる気持ちについて考える。 ○学習を振り返る。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ） 【態度】進んで、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし、見通しをもって、気持ちを伝えるための話し方・聞き方について考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
11	2	漢字の広場 ④ へんとつくり	△へん、つくりなどの漢字の構成についての知識を得て、漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. カードに示されている漢字を組み合わせてできる漢字を考える。 2. p.31を概観し、左右の組み合わせからなる漢字の左側の部分を「へん」、右側の部分を「つくり」と呼ぶことを知る。 3. p.30の下段の設問に取り組み、気づいたことを話し合う。	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ)
				2	4. 「きへん」「にんべん」「てへん」の名称を知り、字例、語例などをもとに、それらの意味を考え、話し合う。 5. 「おおがい」「ちから」の名称と字例や語例を理解する。 6. これまでに学習した漢字の中から、同じ「へん」や「つくり」がある字を探し、発表し合う。	【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
	2 (書く2)	漢字の広場 ④ 二年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 8. 「わたしは、絵をかいたり、はさみで紙を切ったりすることが好きです。」を参考にして絵の中の言葉を使って、絵に描かれている様子を文に書く。 9. 絵の中の言葉や漢字を使って、自分の教室の様子を、主語をはっきりさせて文に書く。 10. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

[illegible]

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
12	1	こそあど言葉	△指示語のはたらきを理解し、適切に使う。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ	1	○冒頭の会話文を通して、こそあど言葉について知る。 1. 教科書を読んで、こそあど言葉のはたらきや形について知る。 2. 絵を見て空所に入るこそあど言葉を考える。 3. 教科書を読んで、こそあど言葉が話や文章の言葉や事柄を指すことを理解する。 ○学習を振り返る。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【態度】進んで指示する語句の役割を理解し、学習課題に沿って、指示する語句を適切に使うとしている。
12	5 (書く5)	はっとしたことを詩に書く	■身近な事、想像したことをもとに、表現を工夫して詩を書く。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けすること。⇒思判表B(1)オ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	1 2・3 4・5	○教材名と二編の詩を読んで、学習のめあてを捉え、見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 4月から書きためている「発見ノート」やこれまでに書いた日記などをもとに、心が動いた瞬間について振り返る。 組み立てよう 2. 二編の詩を読んで、書き表し方の工夫や表現の優れているところを見つけ、詩の書き表し方について理解を深める。 書こう・読み返そう(重点) 3. 自分のまわりに目を向けて、はっとして何かを見つめ直したことをもとに詩を書く。 伝え合おう 4. 書いた詩について交流する。 ○題材の選び方や心の動きの表現の仕方など、今回の学習で学んだことを記録する。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)フ) ◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に書き表し方を工夫し、学習の見直しをもって詩を書こうとしている。
12	4 (書く1)	ことわざ・慣用句	△ことわざや慣用句の意味を知り、ふだんの生活の中で使うことができるように、カードを作る。 △長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。⇒◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり、我が国の伝統や文化に目を向けたりする。	1 2 3 4	1. 教材文を読んで、知っていることわざや慣用句について話し合う。 2. ことわざや慣用句の意味を、辞典を使って調べる。 3. 調べた意味をカードに書き、互いに交流する。 4. ことわざや慣用句を集めて、カードにまとめる。 5. 作った文を発表し、交流する。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(〔知識及び技能〕(3)イ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に、長い間使われてきたことわざや慣用句の意味を知り、学習の見直しをもってカードにまとめようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
1	2	詩を楽しもう 夕日がせなかをおしてくる いちばんぼし	□音読したり、イメージを広げたりして、詩の世界を楽しむ。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2	1. 『夕日がせなかをおしてくる』 (1) 様子がよく伝わるように、工夫して音読し合う。 2. 『いちばんぼし』 (1) 『いちばんぼし』を読んで、想像したことを発表し合う。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】進んで、情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1	7 (話す聞く 7)	三 調べて発表しよう	◇町の行事について調べ、図や写真、表など、資料を選んで発表する。			
		町の行事について発表しよう	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。⇒思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ	1 2 3・4 5～7	○教科書の文章を読み、町の行事について調べたり、資料を整理して発表したりする学習活動のあらましを知る。 ・「学習の進め方」と本文とを照応させながら活動の流れを確かめ、学習計画を立てる。 決めよう・集めよう 1. 調べたいことを決めて、詳しく調べる。 (1) 自分たちの町の行事を思い出したり、調べたりして、教科書の文章やグループの話し合い例をもとに、詳しく調べる内容を話し合って決める。 (2) 教科書の資料例や「インタビューをするとき」を参考に、調べて資料を集めたり、インタビューしてきたりする準備をし、調査する。 組み立てよう 2. 発表計画表を作り、発表の組み立てを考える。 (1) 教科書の話し合いの活動にならって、自分たちの集めた資料を比べ合い、どの資料をどのように使って報告するかを話し合い、選んだり加工したりする。 (2) p.76の例などをもとに、役割や資料提示の仕方を考えて発表台本を作る。 話そう・聞こう(重点) 3. 資料を使って発表する。 (1) クラスで報告会を開き、資料を使ってわかりやすく話したり、大事なところに気をつけて聞き合ったりする。 伝え合おう 4. 発表を聞いて、感想を伝え合う。 (1) 各班のよいところやもって工夫できるところについて、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、学習の見通しをもって、資料を使って発表しようとしている。
1	2	文の組み立て	△主語と述語や修飾語との関係を理解して、文の組み立てを捉える。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ	1 2	○冒頭の会話文を通して、主語と述語だけでは文意が不明確な場合があることに気づく。 1. 教科書を読み、主語と述語による四つの文型を確認する。 2. 修飾語のはたらきと形を理解する。 3. 文の言葉を主語・述語・修飾語に分類し、図で表す。 ○学習を振り返る。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【態度】進んで主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、文の組み立てを捉えようとしている。
1	2	漢字の広場 ⑤ 漢字の組み立て	△かんむり・あしなどの漢字の構成についての知識を得、漢字を正しく読んだり書いたりする。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ	1 2	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. カードに示されている漢字を組み合わせてできる漢字を考える。 2. p.81を概観し、「へん」と「つくり」のほか、位置によって「かんむり」「あし」「たれ」「よう」「かまえ」などと呼ぶものがあることを知る。 3. 「くさかんむり」の漢字は、何に関係のある意味をもっているかを話し合う。 4. 「笛」を例に、「通・宮・原・図・雪・間」の組み立てを考え、話し合う。 5. これまでに学んだ漢字から、二つの部分に分けられるものを選び出し、それがどのような組み立てとなっているかを話し合う。	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑤ 二年生で学んだ漢字 ⑤	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 「まどの外は雪がふっています。母はあみものをしています。」を参考にして、絵の中の言葉を使って、絵に描かれている部屋の様子を説明する二文以上が続く文を書く。 8. 絵の中の言葉を三つ以上使って、二文以上が続く文章を書く。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1～2	7 (書く2)	四 図や写真と文章を、むすびつけて読もう	□段落のつながりに気をつけながら写真と文章を結びつけて読み、考えたことをまとめる。			
		川をさかのぼる知恵	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □段落相互の關係に着目しながら、考えと理由、事例の關係などを叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて内容を要約すること。 ⇒思判表C(1)ウ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ ■収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア	1 2 3・4 5 6・7	○単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 書かれていることの大体を確かめる。 (1) 見沼通船堀が必要になった理由を話し合う。 (2) 芝川と見沼代用水の間を行き来するとき、どんな危険があったのかを確かめる。 考えよう 2. 芝川と見沼代用水の間を行き来するための工夫について、6つの段階に分けた図を用いる等して、整理する。 (1) 段階ごとに行うことにサイドラインを引く。 (2) サイドラインを引いた部分を短くまとめて、図に書く。 (3) 図にまとめたことを友達に説明する。 深めよう 3. 見沼通船堀を考えた人たちの知恵について考えたことを話し合う。 (1) 考えたことをノートに書き出す。 (2) 友達どうしで、書いたことを交流する。 広げよう 4. 「3」で話し合ったことをもとに、考えたことをノートにまとめ、友達と読み合って、感想を交流する。 (1) 考えたことを詳しくノートに書き、友達と読み合う。 (2) 友達や自分の考えのよいところを見つける。 ○学習を振り返る。	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(【思考力、判断力、表現力等】Cカ) 【態度】進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって友達と感想を交流しようとしている。
2	1	十二支と月のよび名	△暮らしの中に今なお使われている昔からの言い方について知り、さまざまな言葉を探して感じたことを書く。 △長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ	1	1. 昔から使われている言い方について、自分たちが知っているものをあげる。 2. 教科書を読み、月や干支の昔の言い方やその由来について知る。 3. 月の言い方や、知っている昔の言葉の意味について辞典や本を使って調べ、新たに知ったことを共有したり比べたりする。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(【知識及び技能】(3)イ) 【態度】積極的に、長い間使われてきた十二支や月の呼び名を知り、学習の見通しをもって、今の暮らしの中に残る昔からの言い方を見つけようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2	8 (書く8)	五 つたえたいことの中心を明らかにして書こう	■身近な生活の中から自分に合った題材を見つけ、段落相互の関係を考えながら、中心になる場面をはっきりさせて文章を書く。			
		強く心にのこっていることを	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書こうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■感想や意見を伝え合い、書こうとしたことが明確になっているかなどについて、文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1・2 3 4 5・6 7 8	○単元の扉や本文を読んで、一年間の生活の中で「強く心に残っていることを文章にする」という課題をもつ。そのうえで、「学習の進め方」を読んで学習のめあてをつかみ、見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. できごとを一つ選び、詳しく思い出す。 ○イメージマップを作って、いちばん伝えたい場面について考える。 組み立てよう 2. 中心場面を考えながら、組み立て表を作る。 書こう・読み返そう(重点) 3. 組み立て表を生かして、読み返しながらかく。 ○推敲の観点をはっきりと認識して自分の文章を読み返し、書き直したり、書き加えたりする。 伝え合おう(重点) 4. 友達と読み合って、感想を伝え合う。 ○伝えたいことの中心を決めて、様子や気持ちを詳しく書くための方法を理解したかを振り返る。また、ふだん日記などの生活作文を書くときにその方法を生かすようにする。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(【知識及び技能】(2)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして文や文章を整え、学習の見通しをもって、思い出に残っているできごとについて文章を書く。
2	2	漢字の広場 ⑥ 二つの漢字の組み合わせ	△漢字二字の言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「坂になっている→道」を例に、上と下の言葉のつながりをもとに、「漢字二字の言葉」を考える。 2. 「深海」を例に「漢字二字の言葉」の読み方と意味を考え、それぞれのつながり方について話し合う。 2 3. 「田畑」を例に、関係のある漢字を組み合わせてできた言葉を考え、国語辞典で意味を確かめる。 4. 「軽重」を例に、反対の意味になる漢字を組み合わせてできた言葉を作る。 5. 「川岸」「白酒」のように連濁する言葉を集めてノートに書き、発表する。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、漢字二字の言葉の構成について考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑥ 二年生で学んだ漢字 ⑥	△絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 →知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 →知技(1)キ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 →◎思判表B(1)エ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 「赤い屋根の家の前を通って、学校へ歩いて行きます。」を参考にして絵の中の言葉を使って、絵に描かれている町の様子を文に書く。 8. 絵の中の言葉や傍線の漢字を使い、「くわしくする言葉」（修飾語）を加えて町の様子を文に書く。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
3	10 (書く2)	六 登場人物の気持ちのうつりかわりを読もう	□登場人物の心の動きを想像しながら、消えていったおにたに手紙を書く。			
		おにたのぼうし	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■書くこうとすることの中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の移り変わりと結びつけて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について具体的に思い描くこと。⇒思判表C(1)エ □文章などを読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章などを読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ ■案内状や礼状を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。⇒思判表B(2)イ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	1 2 3～8 9・10	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 中心人物のおにたについて、感想をもつ。 (1) 主な登場人物を確かめる。 (2) 中心人物であるおにたについて、最後の場面を読み、感想を書いて紹介し合う。 考えよう 2. 物語を読んで、おにたの気持ちの移り変わりを想像する。 (1) 物語の初めの部分(まこと君の家)から想像できるおにたの性格について話し合う。 (2) まこと君の家にいるときのおにたと、女の子の家を見てからのおにたの様子を比べて考えをノートに書き、紹介し合う。 (3) まこと君の家を出て行くときのおにたと、女の子の前からいなくなる時のおにたの違いについて考え、話し合う。 深めよう 3. おにたは、なぜ「角かくしのぼうし」を残して女の子の前からいなくなってしまったのか、考えをノートに書いて話し合う。 広げよう 4. おにたの性格や気持ちの移り変わりをもとに、消えていったおにたについて考え、おにたへの手紙を書く。 (1) おにたが消えてしまったことについて、思ったことをノートにメモし、発表する。 (2) 読んで思ったことを手紙にしておにたに書き、お互いに読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 (〔知識及び技能〕(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、登場人物に宛てて手紙を書くとしている。
3	2 (話す聞く1,書く1)	国語の学習 これまでこれから	◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	1 2	1. 1年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 2. 四年生になったら、1で出し合ったことがどのように広がっていくのか想像したり希望を出し合ったりする。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 (〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に伝え合うために必要な事柄を選び、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。